マダガスカル独立記念日スペシャル

## 二国間関係における継続的な成長

## RANDRIANJAFY TSILAVO MAHERIZO マダガスカル共和国代理大使



してマダガスカル の人々に代わって、私は日本に住む 仲間のマダガスカル市民に祝辞のメ ッセージを伝え、マダガスカルと日 本人の間の相互理解をさらに高める 橋になるために努力するように彼ら を奨励したいと思います。 この場 をお借りして、ジャパンタイムズな らびにパートナー各位の応援メッセ ージに心より感謝申し上げたいと思 います。日本は1960年7月5日にマダ ガスカル共和国を最初に承認した国 の1つであり、1962年9月に外交関係 が樹立されました。両国は友好関係

を築き、長年にわたる実り多い協力 とハイレベルの訪問を特徴としてい ます。 2007年8月、秋篠宮殿下、その後、

秋篠宮親王、眞子内親王両殿下が、 日本の皇族の一員として初めてマダ ガスカルを訪れ、生物多様性と森林 再建を観察しました。 マダガスカ ル元首が日本を初訪問したのは2008 年5月、第4回アフリカ開発会議 (TICAD IV) の機会です。 私たちの絆は成長を続けています。 日本からは秋葉賢也衆議院議員が首

相の特使として2019年1月に総理大 臣就任式典で我が国の大統領就任式 典に参列し、その後2月には当時の 経済産業大臣関芳弘氏が訪ね、3月 には当時の外務副大臣山田賢司氏が 来訪されました。

マダガスカルからは、ナイナ・アン ドリアンツィトハイナ大統領、外務 相、農業・畜産・漁業大臣のルシア ン・ラナリベロ大臣が昨年TICAD 7 を機に訪れました。会議の傍らで、 マダガスカルの国家元首は安倍晋三 首相と首脳会談を開きました。

ることについて意見を交換しまし た。また、国会議長であるクリステ 1を担っています。 ィーヌ・ラザナマハソア議長が、徳 私たちの開発のビジョンは、投資に 仁天皇陛下の即位式のため、マダガ 対してオープンでありながら、主な スカル国の元首を代表して来日しま 資産である人間の多様性と卓越した した。

日本のマダガスカルとの技術的およ に焦点を当てています。4番目に大 び経済的協力は1965年にさかのぼ り、国際協力機構の支援のもと、マ れてユニークな生物多様性を持つ ダガスカルの人々の教育、農業、保 「宝の島」です。 医薬品や化粧品で 健、主要インフラストラクチャーお の持続可能な使用を期待しながら. よび生活条件の改善に多大な貢献を してきました。 TICAD 7傘下での協 力範囲の拡大の観点から、都市計画 と開発、地方分権化への協力、生産 的なエコシステムと起業家精神のバ ックボーンをサポートする持続可能 つ医療専門家に深い感謝の言葉を伝 な品質のインフラへのアクセスが追 求されています。 農業、観光、輸送、エネルギー、漁 いと思います。 また2段階で支払わ 業、鉱業などの幅広い可能性と、主 れた100万ユーロの資金でマダガスカ 要な海上ルートに沿ったインド洋の ルでのCOVID-19との戦いに貢献した 戦略的な立地と相まって、マダガス 日本政府に感謝の意を表します。

カルは投資の魅力的な目的地です。

両首脳は、マダガスカルと日本の二 日本の住友商事は、日本の主要投資 国間関係をさらに発展させ、強化す プロジェクトを運営しており、ニッ ケルとコバルトの日本の輸入の4分の

> 自然と調和して未来を構築すること きい島であるマダガスカルは、並外 観光を通じてその自然のままの独自 性を評価し、維持する取り組みが展 開されています。 最後に、COVID-19の大流行に直面し て、この機会に、危機の最前線に立

え、これらの試練の時代の世界中の 人々に希望と励ましの言葉を伝えた



2019年8月に横浜で開催された第7回アフリカ開発会議において安倍晋三首相と会見する アンドリー・ラジョエリナ大統領 2019年/日本 マダガスカル大統領府

マダガスカルと日本の関係が今後数 年間で相互利益のためにさらに成長 することを確信し、私は日本の友好 的な人々のための継続的な進歩と繁 栄を願っています。

このコンテンツは大使館と共同で編集されま した。 ここで表明された見解は、必ずしも新 開の見解を反映するものではありません。

